

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や各フロアの見やすい箇所に掲示して、会議の中でも毎月振り返る機会を設けて職員同士共有している。	運営理念は、額入りで各所に掲げられている。職員の全体会議において、理念が日々のサービスの提供に反映されているかを職員間で確認し、認識を共有するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の回覧板に夏祭りやボランティア来訪の広告を回していただいている。また、運営推進会議の場で自治会長やその他メンバーの方と情報交換している。	自治会長の協力を得て、事業所の広報誌を地域に回覧してもらっている。地域の「ござれや花火大会」に合わせて、事業所の駐車場を開放し「夏祭り」を開催するなど、地域住民からも参加してもらえるよう取り組んでいる。(夏祭りの案内を近隣地域に職員がポスティング)また、気候が良い時は近くの公園等に出向き、住民と触れ合う機会を作るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験や大学生の実習の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し、毎月の予定や活動報告を行っている。その他メンバー1人ひとりからご質問やご意見をいただき、活動内容や災害対策について話し合っている。	運営推進会議は定期的開催されている。利用者、利用者家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員、近隣施設の知見者がメンバーとなり、事業所側からは理事長、施設長、職員が参加し、参加者一人ひとりの立場から意見、要望を発言してもらい活発な話し合いが行われている。その内容は会議録に詳しく記録され職員間で共有するとともに利用者家族にも郵送している。会議で出された意見、要望は、すぐに取り組めるものから日々のサービスに活かせるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1度の運営推進会議に地域包括支援センターの職員、毎月介護相談員に訪問していただいている。また山の下地域包括ケアネットという行政主体の活動に定期的に参加している。	区役所の担当者とは、常に電話やメール等で相談したり指導を受けたりしている。年2回、行政主体で実施する「山の下地域包括ケアネット」の講習会に参加し、多職種の参加者との交流もあり、有益な企画であると実感している。区役所から派遣してもらっている介護相談員は、全利用者とゆっくりに対応してもらい喜ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアは内側からボタンを押さないと開けられない状態であるが希望があればすぐに対応出来るようにしている。身体拘束防止委員会を発足し講師を招き研修を開催したり職場内研修を開催している。	アニュアルは整備されており、職員がいつでも確認できるようになっている。昨年4月に身体拘束防止委員会を発足し、各ユニット2名ずつ4名が委員となり、身体拘束防止、虐待防止に関する研修会を企画し定期的に実施している。不適切ケアの事例をネットから出して資料として活用し、職員の共通認識を図っている。事業所はユニットが1階と2階に分かれており、必要最低限のセンサーを使用しているが、利用者の自由な行動を妨げないように配慮している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市が主催している虐待防止研修に管理者が主となり参加し、その資料を職員に配布している。また身体拘束防止委員会が主となりアンケート調査を実施し虐待防止について意識を高められるよう努めている。	職員全員を対象にしたアンケート「虐待の芽チェックリスト」を実施した。職員からは率直な回答が得られ、全職員で共有し合うことにより虐待防止への意識を高めている。また、施設長は職員の疲労やストレスが日々のケアに影響しないよう言動を注視し、虐待が見過ごされることがないように配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者があり分からない事があれば市の関係者や直接成年後見人へ相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や契約書等説明しながら料金や医療との連携体制について説明し不安や疑問点を必ず伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話をかける時に意見、要望を聞いている。また今年度に初めてご家族に向けてアンケートを実施して直接言いにくい意見や要望を確認出来る事が出来た。	前回の外部評価結果を踏まえて、昨年7月に家族を対象にアンケート調査を実施した。その結果を集約して家族にフィードバックし、改善できる事項から取り組みを進めている。日常のケアの中で利用者の気持ちや要望を聞き出したり、家族の面会時における対話、要望箱の内容等を職員間で共有し運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前期と後期、年2回に分けて主任、副主任を中心に各職員と面談を行い、意見や提案を伺っている。	職員から提案された意見、要望は、施設長を交えたカンファレンスや全体会議で検討し具体化するようにしている。現在直面していることは2階ユニットの利用者の1階への移動手段について、災害避難時のことも併せて昇降機の設置があげられ検討されている。施設長は職員に対し、気づきやアイデアを失敗を恐れずチャレンジしてみることを勧めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用して、半年に1度の間隔でユニット目標、個人目標を定め向上心を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのレベルに合った、外部研修や法人内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケアネットで他職種との意見交換や、法人内の研修で相互訪問して意見交換、勉強会を開催して資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接から、ご本人、ご家族、ケアマネより性格や生活歴等細かく聞き取りをしている。また要望にも耳を傾け安心出来る関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、事前面接、契約時に困っている事や不安な事、要望を必ず聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での問い合わせ、施設見学から入居に至る中でお話する時にご本人、ご家族のニーズや情報の把握をしてそれに伴ったサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等一緒に行い、また一緒にお茶や食事を摂り関りを増やし家庭的な雰囲気を作る事で信頼関係が築けるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や行事へ参加された時の様子など、また体調面、精神面の近況を毎月1回のお手紙で報告している。必要があればその都度電話をかけてご本人の様子をお伝えすると共に意見や要望を聞いている。	外部評価アンケートでは、毎月の家族へのお手紙について評価されている。職員は、全員が1～2名の利用者担当を受け持ち、本人の日常の様子、体調の変化、受診の報告、服薬の状況等が詳しく家族に伝えられており、家族の面会時の話題が見つかりやすいと喜ばれている。広報誌「ひまわり便り」は、年2回発行されカラー写真で行事への参加の様子が盛り込まれている。また、家族からも職員が見逃していること等を伝えてもらうように努め、共に本人を支えていく良い関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式のアセスメントシートの活用やご本人やご家族、ケアマネとの会話の中で馴染みの人や場所を把握するよう努めている。	入居時に本人、家族の協力を得てセンター方式で馴染みの人や場を把握している。入居後は、本人との会話の中やケアマネジャーからの情報で親戚の方との面会に繋がられることもあるが、出掛けて行くことは少なくなっている現状がある。今後もつながりの継続に配慮していきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の体操やレクリエーション、毎月の行事で利用者同士で関りが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談があれば出来る限りの支援、協力を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や思いの訴えがあった場合はケース記録に記載し、その日出勤の職員同士または会議で対応方法を検討している。	日常の会話の中から利用者一人ひとりの希望、意向について常に関心をはらい把握に努め、記録し全職員で共有している。日頃、無口で笑顔のない利用者が笑顔になった時等、些細なことでも詳しく記録し対応方法の足がかりとなるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の会話の中から生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用までの経過を把握出来るよう努めている。また必要であれば前任のケアマネからも情報提供していただいている。	入居時、センター方式の様式を用いて家族から在宅での様子、仕事歴、ライフスタイル、性格、趣味、価値観、交友関係、サービス利用の経過等を把握している。これに基づき、午睡の習慣やテレビの野球中継を楽しむ人、料理や手芸を楽しむ人等、一人ひとりに合ったケアを心がけている。更に、面会時の家族や知人等から小さな事柄でも情報として伝えてもらうよう継続的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の体調変化や気づき等を必ずケース記録に記載すると共に申し送りでも必ず引き継ぎを行う事で情報共有、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえケアカンファレンスを行い職員同士意見を出し、各利用者担当職員と計画作成担当者と共に現状に即した介護計画を作成している。	利用者の生き生きする生活場面の言葉に耳を傾ける事を優先に考えながら、家族の希望等を踏まえてケアカンファレンスが行われている。3ヶ月後にモニタリングを実施、その間各月末に、利用者の心身の状態をまとめその人らしく暮らし続けるための支援に役立っている。半年後に介護計画書の見直しを行い家族の確認をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをケース記録に記載し、申し送りでも必ず引き継ぐ事で情報共有している。また会議の中で、様子や気づきを元に意見交換して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やその時のニーズに対して職員皆で臨機応変に対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ地域で活動されているボランティアの受け入れやイベントに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、協力病院の医師が往診にきている。要望があれば昔からかかりつけ医の受診の対応もしている。	本人及び家族の希望でかかりつけ医の受診も可能であるが、入居と同時に協力病院の医師に移行されている。4月からは、連携病院の訪問看護ステーションから週1回の訪問があり、小さな医療面の相談等や利用者の安心・満足に繋がることを期待している。利用者の診察結果や健康状態については、毎月のお便りで伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師の同行はないが協力病院の看護師へ日々の様子や体調変化を伝え指示を仰げる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療を受けられるよう医療機関へ迅速に情報提供している。入院中でも病院へ伺い状態の把握、退院時の相談をしている。また退院後の対応方法についても職員同士で話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事を契約時に説明し、看取りケアを希望された際は同意書をもらい、ご本人ご家族に寄り添い主治医と職員が連携を図りながら支援している。	入居時に「重度化・看取り介護に関する指針」について説明し同意を得ている。利用者の体調が悪化した際には、家族の意向を確認し相談の上で対応している。また、本部の研修「看取り勉強会」にも参加している。初めての看取りケアを経験した結果、利用者の状態が安定し看取りを回避し元気になられた事例を経験している。家族に喜ばれるとともに職員間でしっかり話し合いチームで支援できた証となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。年に1度は研修テーマを決め法人内の看護師を講師として研修会を行っている。	緊急時対応のフローチャートも見やすい場所に掲示されている。現在、消防署のAED講習は全員受講できるよう努めている。具体的に飲み込みが悪い方のリスク対応を行い職員で確認し、初期対応できるよう周知徹底を図っている。季節に流行する感染対策の講習は管理栄養士等専門職からの研修を行い実践力が身に付くよう努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、災害を想定した避難訓練を行い職員は昼夜問わず避難方法を身につけている。また地域の防災訓練にも参加し少しずつではあるが顔の見える関係を築いている。	年間防災計画に基づき2回消防署立ち合いの下、避難訓練が実施されている。また、毎月災害を想定した訓練や、災害用伝言ダイヤルの通報訓練も行っている。今回は、市のホームページから情報収集し事業所の「水害マニュアル」を作成し全職員に周知することができている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの性格を把握して、その方の気持ちに合わせた言葉かけや対応が出来るようにしている。また接遇に関する研修にも積極的に参加している。	利用者の衣類の汚れや整髪の乱れ等は、自分の家族だったらと考えることで、一人ひとりの利用者を尊重した対応を大切にしている。笑顔で挨拶が広がるよう接遇に関しても力を入れ取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から積極的に話しかけ、その時の気持ちや希望など聞き出す事で思いに沿った生活が送れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になっていないか毎月の会議で確認し、必要があればその都度業務改善を行い利用者のペースに合わせて生活が出来るよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみをご家族から情報を聞き好みを取り入れよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけ等出来る事は職員と一緒に会話を楽しみながら行っている。また同じテーブルを囲み食事したり、一緒に畑へ行き野菜を収穫している。	食事の準備や片付けは、個々のできる部分では行ってもらい、食事支援の必要な方には自力で食べられるよう工夫したり、食べるペースに合わせた介助が行われている。楽しみである食事の献立は職員が作成した後、連携病院の管理栄養士が確認し適切なアドバイスをもらい、利用者に栄養バランスの良い美味しい食事が提供されている。また、施設裏の畑でミニトマトやナス等を栽培し、職員と一緒に草取りや水やりをして、収穫を楽しみ献立に活かして喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込みや咀嚼力を把握して食事形態やトロミなど一人ひとりに合わせ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりに応じた方法で毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握する事で羞恥心に配慮しながらトイレ介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレへの誘導の声掛けや状態にあった排泄用品を利用している。また、トイレは玄関近くにあり共有空間から離れることで、場所の認識ができ排泄の自立に結びついている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜を多く取り入れ、水分も確実に摂れるよう工夫している。また毎日の日課として体操を取り入れ体操が上手く出来ない方は歩く機会を設けて皆が体を動かせるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人にまず意思を確認して前回の入浴からの間隔を確認して優先順位を決めている。また菖蒲湯やゆず湯など季節に合わせた変わり湯を楽しんでいただけるよう対応している。	職員はマンツーマンでゆっくり関わり、気持ちよく入浴できるよう心掛けている。入浴に誘っても気分が乗らない利用者には時間と職員を変えたりすることもあるが無理強くないよう心掛けている。重度の方は、職員2人介助で利用者に負担がないよう丁寧に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	広いスペースを活かし、1人になり趣味の折り紙等行える時間を設けたり、様子を見ながら静養していただけるよう声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳やお薬カードで副作用等確認している。分からない事や不安な事は医師や薬剤師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や仕事歴等把握して出来る事を無理のないようお願いしている。2階へ行ったり、散歩やドライブ等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じられるよう出来る限り散歩やドライブ等外出している。また外出行事も計画して外食や施設見学など定期的に行えるよう支援している。	日常的には利用者の体調、天気等を勘案しながら、ドライブや飛行機と桜を觀賞できる近隣の散歩に出かけることもあり、希望に沿った外出支援に努めている。また、花見、地域の花火大会、紅葉、ぶどう狩り、外食など年間行事を作成して楽しい時間を提供しており、生活感を自覚できるように支援している。皆で参加できるよう連携施設から福祉車両を借り、外出の機会を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物へ同行していただき、好きな物が買えるようお金を使う支援をしている。ご本人やご家族の希望でお金を所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等から利用者に届いた手紙があれば必ずご本人にお渡ししている。希望があれば電話をかける対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に利用者と一緒に作成した季節に合った飾りつけをしている。不快な臭いは消臭スプレーや消臭剤等使用して配慮している。	広い空間は利用者が集う場所として活用され、所々に腰を下ろせる長椅子の配置に配慮したり衝立を活用するなど、落ち着いて寛げるスペースになっている。利用者とともに制作した春の装飾は、目の届く位置に掲示されている。また、浴室とトイレへの共有空間(廊下)は、職員の見守りと常に気配りがあり安心して過ごせる空間作りに工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でテーブルの配置をしている。また必要な方には広いスペースを活かし1人になれる場所と時間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物の持ち込みは自由にさせていただいており、ご本人やご家族に相談しながら居心地よく生活出来るよう支援している。	居室は自宅で使用していた慣れ親しんだものを自由に持参してもらい、ベッドの配置を相談しながら安心して落ち着いた空間を作っている。家族写真やぬいぐるみ、またはテレビを持ち込んで好きな野球中継を十分楽しめる利用者もあり、一人ひとりの思いや暮らしが継続されるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人ひとりがトイレの場所や季節等分かり易い表示や飾りつけ等工夫している。		